書　評・Book Reviews

魚類学雑誌
41(2): 227, 1994

サメ・ウォッチング. —V. スプリンガー・J. ゴールド. 1992. 仲谷一宏（訳）. 平凡社, 東京. 273 pp. ISBN 4-582-54221-2. ¥1,800（税込）.

欧米の人々は一般に日本人よりサメに対して好奇心が強いようである. 本書はアメリカ合衆国ワシントン特別区にあるスミソニアン研究所の国立自然史博物館脊椎動物部門魚類部の主任研究者 Dr. Victor G. Springer と科学情報担当官 Mr. Joy P. Gold の二人によって人々のサメに関する質問に答えると言う形式で書かれている.

欧米ではサメに関する一般書は沢山出版されているが, 興味本意で科学的には少々おかしいものやサメの一部の事柄に偏って誇大に書かれているものが少なくないが, 本書は平易に, 生物学的にも極めて正確に記述されている. アメリカでの出版（1989 年）からやや時を経て翻訳されたので, 翻訳者の仲谷一宏氏がその後の主要な新しい知見と日本に関する情報を増やして出版したので, 本書は日本語改訂版と言えるものである.

第 1 章「サメの真相」では「サメってどんな魚」,「サメの祖先はいつ頃出現したのか」,「サメは何種くらいいるのか」,「サメはどのように分類するのか」,「サメは泳がないと呼吸ができないのか」,「サメはどのように生殖するのか」,「サメはどのようにして餌を探すのか」等々の問いに答える形式で解説が行われている. 多くの正確な図や写真を駆使して, サメについての基本的な項目が極めて分かりやすく, 興味深く述べられているので, サメについての格好の教科書の感がする.

第 2 章「スーパーシャーク」では, 巨大で見事なサメや人間にとって危険な大型のサメをスーパーシャークとして解説している. すなわち, ホホジロザメ, ジンベイザメ, シュモクザメ, オオメジロザメ, ヨシキリザメ, アオザメ, ウバザメ, オナガザメ, イタチザメ, メジロザメ類をとりあげて, 彼らの行動や生態を詳しく述べている.

第 3 章「サメによる食害」では, サメによる被害を避ける方法が論じられている.

第 4 章「サメと私達」では「サメの利用法は」,「サメの専門家になるにはどうすればよいか」,「サメの研究で残されているものは何か」と言う三項目について論述しながら, サメを特別視したり, 忌み嫌うばかりではなく, 科学的にサメを知ることの重要性を説いている.

まだまだ未知の魅力を秘めたサメの世界に興味を導いてくれるすばらしい本である. 1992 年 3 月 8 日の愛媛県沖の瀬戸内海でのホホジロザメによる潜水漁夫襲撃事件はまだ記憶に新しいところである. 海で働き, これらの危険な大型のサメと遭遇する可能性のある人々には強く一読をすすめたい本である.

（中村　泉　Izumi Nakamura: 〒625 京都府舞鶴市長浜
京都大学農学部附属水産実験所）

魚類学雑誌
41(2): 227-228, 1994

琵琶湖の自然史. —琵琶湖自然史研究会（編）. 1994. 自然史双書 5. 八坂書房, 東京. 340 pp. ISBN 4-89694-805-X.

淡水湖として世界でも有数の歴史を持つ琵琶湖の地誌とそれを反映した固有種の出現の問題についてはすでに幾つかの書物で扱われてきた. 琵琶湖自然史研究会の編著による本書にはこれらの諸問題に関する最新のデータによる解説が試みられている. 7 人の著者により分担執筆されているため, これまで単一の著者によって書かれたものに比べて詳細に解説された部分が多い. 複数の著者の手になるものの全体を流れる考え方には首尾一貫したものが感じられる.

本書は琵琶湖出現以降の地誌を扱う部分とそこに生息してきた生物の歴史という二つの課題から構成されている. 琵琶湖の地誌については地道な努力の積み重ねによってその変遷のベールが着実に解きほぐされていく様子が伺える. 琵琶湖における固有種の出現機構を深く広い沖合域（現在の北湖）が新たに生まれたことに求める点は基本的には従来の考え方を受けついだものである. しかし, 一部の生物の出現に関してはこれまでの説を考え直す必要のあることも指摘されている. 植物プランクトンでは研究が進むと共にこれまで固有種と考えられてきたものの中に他の地域にも分布していることが判明し

たものがあったいう．また，琵琶湖を代表する固有種と考えられているビワコオオナマズも琵琶湖の歴史の中では古い時代に当たる上野累層から極めてこれに近似した化石が出現したことや大陸の現生種との関連から遺存種ではないかとの指摘もなされている．これらの点は，琵琶湖の固有種と位置づけられてきたものについても今後さらに検討する必要があることを示している．

一方，琵琶湖固有種と考えられてきたセタシジミ（中国大陸に同種がいるとの説もある）の起源については，染色体の分析結果から遺存的なものであるとの説が明確に展開されている（本文中では雌雄の同異体性，あるいは表中にあるシジミ類の染色体数といったいわばストーリーのキーになる部分がミスで入れ替わっている）．しかしながら，分析対象とした各種の採集点はそれぞれ一地点と極めて少なく，核型の解釈と合わせてこの説は染色体の研究者の間では必ずしも広く受け入れられていないようである (Okamoto and Arimoto, 1986)．琵琶湖成立の解明に大きな部分を占める生物でもあり，さらに追試が必要であると思われる．

貝類では一部の種類を除き殻の形態や模様に基づいて分類が行われている．しかし，他の手法を用いることによって従来の分類結果を根本的に見直す必要があることも指摘されるようになった．たとえば，ドブガイでは同所的に分布しながら遺伝的には全く異なる二型の存在が指摘されている（田部ほか，1994）．しかも両者の遺伝的な違いは亜種や近似種といった程度のものではなく属や科の違いのレベルにも匹敵するものである．殻による種の識別の限界については浦部（1992）も指摘している．琵琶湖の地誌や固有種の出現についての解釈には現生種や化石も含めた貝類の殻の形態的な分析結果が大きく反映されている．貝類の今後の研究の進展によってはこれらの解釈にも新たな側面が出現してくるのではないだろうか．

琵琶湖固有の魚種と言えばなんといってもコイ科魚類であるが本書ではコイ目やコイ科の特徴について極めて要領よく解説がなされている．特に，論文等からは会得しがたい仔魚の咽頭歯系の発達についての解説は大変ありがたい．

本書には用語解説・参考文献も付されており琵琶湖の歴史の解明に迫る研究過程とその解釈を知る上で極めて有用である．

引 用 文 献

Okamoto, A. and B. Arimoto. 1986. Chromosomes of *Corbicula japonica*, *C. sandai* and *C.* (*Corbiculina*) *leana* (Bivalvia; Corbiculidae). Venus, 45 : 194–202.

田部雅昭・福原修一・長田芳和．1994．淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的2型．Venus, 53: 29–35.

浦部美佐子．1992．同一河川におけるカワニナ2種の判別と形態比較．Venus, 50: 270–286.

（岡崎登志夫　Toshio Okazaki：〒519-04 三重県度会郡玉城町昼田 224-1　水産庁養殖研究所）

魚類学雑誌
41(2): 228–229, 1994

Fishes of the Bahamas and Adjacent Tropical Waters: Second Edition.—James E. Böhlke and Charles C. G. Chaplin. 1993. University of Texas Press. xlviii + 771pp, pls. 36. ISBN 0-292-70792-4. US$ 110.00.

本著は1968年に初版が出され，永い間大西洋熱帯海域の魚類図鑑としては他に類をみない完成度をもった名著の第2版である．初版は5000部印刷され，1970年の中頃までに完売したという状況からして，魚類研究者のみならずアクアリストにも「待望の書」であったことが推測される．事実この本は，"the 24 Anual Philadelphia Book Show" の「Buisiness, Scientific or Technical」部門で授賞している．この初版については意外と古書としての入手が困難で，私もかつて必要頁だけを複写して利用し，改訂版が出版されるのを待っていた一人である．とりわけアクアリストにとっては「カリブ海の魚」の正確な情報を知るうえで長く待たされた必要な書であったにちがいない．

第2版の内容については初版の完全復刻に近いものと言え，最初の16頁分に新しい分類学的情報が加えられたことを除けば，あとは全頁 (771 pp.) が初版のリプリントである．本著の再販までに25年の歳月が経過しており，1968年以降に同じ海域から報告された新種や新記録種も多くあることから，新分布地などの情報を含めて16頁分の加筆・訂正が行われているのが有難い．主著者である James E. Böhlke（1930–1982：初版では記載部分は全て Böhlke が担当）は，本著の再販を望みながらも若くして他界しているので，第2版の『命名規約上の変更と追加種』の章は，William F. Smith-Vaniz (Florida Museum of Natural History) が他の数人の研究者と協力しながら代表記述をしている．また図版（合計36図版）

については8図版が最新の生態写真と差し替えられている．訂正・加筆された部分のおもな内容は次の通りである．

第1リスト（必要ある科・属・種・命名者の変更 (1)〜(4) を行い，俗名・図・種の記載内容はオリジナルのままとする）

(1) 分類学的位置の変更—主に科・属の概念の変更
(2) 種名の変更—新参同物異名と新種の追加
(3) 種名の語尾綴りの変更—1985年版（第3版）の国際動物命名規約に基づく変更
(4) 命名者の変更—原記載に基づく種の異動との関連による

第2リスト

初版に記載した種（572種）に，58種の新分布記録種と33種の新種を追加

第3リスト（文献）

第1, 2リストで扱った種についての102件の引用文献

本著の特徴は，両著者による1955年から始まったバハマ海域の魚類調査と膨大な採集標本に基づくものであり，ある意味では分類学を専門とする研究者が自ら潜水採集と研究発表という二本立ての作業による成果といえる．今では普通のように思われるこれら徹底した"フィールドワークとデスクワークの同調"のはしりではなかったのだろうか．出版企画ができたあとの8年間で，558フィールドの調査と567種の標本採集とリストの作成，その期間中にも関連した35論文を著している．両著者は「全く生い立ちがちがい，親子ほどの年齢差があるにもかかわらず，魚を堪能して海面から上がったときの二人の存在は全く同一人物のようであった」という Chaplin 氏のご子息のはしがき（第2版）から，チームワークに支えられたこの著書の真価がうかがえる．当時研究に際して，SCUBA による深所潜水と採集用薬品 "Rotenone" の併用を二人に勧めたのは，彼の John E. Randall だったというのも頷ける話である．James E. Böhlke の人物像や業績については，Proc. Acad. Nat. Sci. Philadelphia, 1983(135) と Copeia, 1983(3) に紹介されている．

（林 公義 Masayoshi Hayashi：〒238 神奈川県横須賀市深田台95 横須賀市自然博物館）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
41(2): 229-230, 1994

□魚類分類学・進化学

Indo-Pacific Fishes, No. 21. Revision of the Genus *Luzonichthys* (Perciformes: Serranidae: Anthiinae), with Descriptions of Two New Species.—J. E. Randall and J. E. McCosker. 1992. 21 pp., 2 pls. ISSN 0736-0460. ハワイの Bishop Museum の John E. Randall が編集している本シリーズも20号を越えた．サンゴ礁魚類を中心として，インド・太平洋の魚類の分類を課題とした本シリーズは，豊富なカラー写真を用いた，特異な出版物である．Randall の出版物という傾向はあるが，情報量は豊富である．サンゴ礁魚類に興味のある会員には，購入をお勧めする．購入希望者は Randall に直接申し込めばよい．(KM)

Indo-Pacific Fishes, No. 22. Revision of the Cardinalfish Genus *Cheilodipterus* (Perciformes: Apogonidae), with Description of Five New Species.—O. Gon. 1993. 59 pp., 5 pls. ISSN 0736-0460. 著者の Gon はテンジクダイ科の研究者として知られているが，その一方，南大洋の魚類の研究も行っている．本書ではヤライイシモチ属の分類学的再検討を行い，15種を認めている．(KM)

Indo-Pacific Fishes, No. 23. Revision of the Indo-Pacific Gobiid Fish Genus *Valenciennea*, with Descriptions of Seven New Species.—D. F. Hoese and H. K. Larson. 1994. 71 pp., 6 pls. ISSN 0736-0460. 本書ではハゼ類の研究で有名な Hoese と Larson がクロイトハゼ属の分類学的再検討を行っている．扱われた16種のうち，7種が新種である．(KM)

Fishes of the World, 3rd ed.—Joseph S. Nelson. 1994. John Wiley & Sons, New York, USA. 600 pp. ISBN 0-471-54713-1. 1984年に出版された第2版が11年振りに改訂された．著者の作成したパンフレットには，第2版に比べてより厳密に系統関係を扱ったとのコメントがある．彼の認める科（現生）の数は445から482に増